

捜査、捜索の一助に

気仙沼署でドローン体験会

気仙沼署員を対象に「会」が27日、同署で開した「ドローン体験」かれた。「東北ドロー



ドローンの操作について学ぶ気仙沼署員

ンスクール」を運営する「マルタク」(市内田中前)職員を講師に署員が、操作や活用方法について学んだ。犯罪捜査や行方不明者の捜索現場でも役立つドローンの機能について、知識を深めてもらおうと「マルタク」が主催し、県内の警察署で初めて開催した。この日は署員約50人がドローンに関する法律や活用の仕方について講義を受けた後、敷地内で体験会が行われた。

署員は、指導を受けてドローンを操縦。上下左右に位置をずらしたり、ドローンに取り付けているカメラの映像を操縦機のディスプレイで確認したりしながら捜索現場での使い方などを学んだ。

大谷駐在所の小林勇一(34)は「ドローンの操作は初めてで難しかったが勉

強になった。学んだ知識は行方不明者の捜索など警察活動に役立てていくほか、悪用されないように適正な利用を市民に呼び掛けていきたい」と語った。